

---

## 長野西高等学校ユネスコスクール委員会 – 世界や地域の問題に対して私たちができること

長野西高等学校のユネスコスクール委員会は、SDGsに関する校内外への啓発と、地域・世界が抱える問題に対して自分たちにできる行動を実践することを目的に、年間を通じて様々なプロジェクトに取り組んできました。高校生としての視点を活かし、身近な消費行動から国際的課題までをつなげる活動が展開されています。

### フェアトレードチョコレートの販売を通して国際問題を考える

バレンタインの時期には、フェアトレードのチョコレートを校内で販売。カカオや砂糖の生産背景にある児童労働や貿易の不平等といった問題を紹介し、生徒たちの「買う」という行動が世界とつながっていることを伝えました。普段の生活に密接な「チョコレート」を切り口にするすることで、より多くの人に関心を持ってもらうことができました。

### 放置竹林と向き合い、地域資源を活用する「竹紙バッグ」

6月・7月には文化祭に合わせ、地元企業と連携して「竹紙バッグ」の制作に取り組みました。竹は放置されることで周辺の生態系や土砂災害リスクを高める要因ともなるため、これを資源として活かすことに挑戦。全校から集めたデザイン案をもとに、オリジナルエコバッグを完成させ、文化祭でレジ袋の代わりに使用してもらいました。ついにはレジ袋の完全撤廃を達成し、行動の成果を実感できた取り組みとなりました。

### 「服のチカラ」プロジェクトとフリーマーケットの開催

文化祭では、不要になった衣類を回収し、難民支援のために活用する「服のチカラプロジェクト」にも参加しました。また、集めた衣類や小物を校内で販売するフリーマーケットを開催。家庭や地域から持ち寄られた品々が多くの人の手に渡り、「モノを捨てずに再利用する」ことの価値を、来場者と共有しました。

### 未来への展望

高校生の手で実施されたこれらの活動は、身近なテーマから国際的な課題へと視野を広げるきっかけとなり、生徒たちに「行動すること」の意義を強く実感させるものとなりました。今後はさらに一つの課題に焦点を絞り、深く掘り下げる学びを行うとともに、新たなアイデアにも積極的に挑戦していく予定です。